

彦名通信

COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, YONAGO COLLEGE

2018

10

vol.194



空手道国際大会にて第3位



日本設計工学会論文賞受賞



全国大会での感想戦(左から本田女流3段、戸辺7段、2C近藤)



全国高専大会柔道V2

Index

部活動特集

部活動・各種大会報告	2
全国高専大会	3・4・5
インターハイ	6
各種大会	7

インターンシップ報告

4年学年主任挨拶	
機械工学科	8
電気情報工学科	
電子制御工学科	9
物質工学科	
建築学科	10

オープンキャンパス

エンジョイ科学館	11
日本設計工学会論文賞・各賞受賞	12
国際交流	13
海外研修	14
KOSEN4.0、フロンティア工学セミナー	
第2回医工連携フォーラム	15
卒業生は今 (vol. 15)	16

部活動・全国大会等報告

校長補佐(学生) 稲田 祐二

今年度も全国高専体育大会・全国規模のコンテスト等において、多くの学生が活躍してくれました。

全国高専体育大会では、陸上男女・卓球男子・柔道女子・剣道女子・水泳男子・テニス女子の個人競技で入賞しました。特に、柔道女子の個人戦は優勝の活躍でした。団体種目でも、卓球男子・剣道女子・バドミントン男子が入賞しました。

全国高校総体(インターハイ)には柔道・卓球・ソフトテニス・空手道が出場しました。残念ながら上位入賞はありませんでしたが、今後行われる国体での活躍を期待したいと思います。

空手道部は、世界大会「和道会オールネイションズチャンピオンシップ」に出場し、3位を獲得しました。

文化活動においても、放送部・将棋同好会・B&C研究同好会等が全国規模のコンテスト等で入賞しました。特に、全国高等専門学校将棋大会では優勝、高校生バイオサミットでは厚生労働大臣賞を獲得しました。

以下に上位入賞した各種大会等の結果を記し、入賞した諸君の健闘を称えたいと思います。

主 な 成 績 一 覧

平成30年度全国高等学校総合体育大会(平成30年7月26日～8月20日)

■ソフトテニス	男子ダブルス	3回戦敗退	3 E	橋本 颯太、3 A	加藤 有真
■卓球	男子シングルス	2回戦敗退	2 E	柳原 武司	
■柔道	女子57kg級	2回戦敗退	2 E	大場 遥加	
■空手道	女子個人組手	1回戦敗退	3 C	近田 繭子	

第53回全国高等専門学校体育大会(平成30年8月18日～9月2日)

■柔道	女子個人	第1位	2 E	大場 遥加	
■卓球	男子団体	第2位			
	5 M 山崎 雄矢、4 E 篠原 照人、4 D 内田 純平、梅田 和樹、3 D 高野 陽平				
	2 E 小西 伶旺、柳原 武司、2 D 森 正晴				
	男子ダブルス	第2位	2 E	柳原 武司、2 D 森 正晴	
■バドミントン	男子団体	第2位			
	5 C 池田 耕介、4 D 井上 和喜、4 C 山崎 凌、3 D 細田 一成				
	3 C 財原 侑生、田中 泰斗、3 E 岡田 響平、2 C 山根 康平				
■テニス	女子ダブルス	第2位	4 M	春山 あすか、3 C 原 望実	
■陸上競技	男子400mハードル	第3位	3 A	眞山 尚輝	
	女子800m	第3位	5 C	坂本 奈未	
	男子4×400mリレー	第4位	5 E	青戸 淳之介、岡村 康平、4 C 岡本 直也	
			3 A	眞山 尚輝	
	男子400m	第6位	3 D	西村 大樹	
■剣道	女子個人	第3位	4 C	錦織 諒果	
	女子団体	第3位			
	4 M 大和 文子、4 C 錦織 諒果、2 C 倉敷 馨子、1 M 岡崎 麗菜、1 A 戸川 杏璃				
■水泳	男子100mバタフライ	第3位	3 D	鐘築 知也	

その他の大会・コンテスト

■和道会オールネイションズチャンピオンシップ2018	U21男子形	第3位	4 C	林 来翔	
■第25回全国高等専門学校将棋大会	個人戦	第1位	2 C	近藤 裕	
■第65回NHK杯全国高等学校放送コンテスト	創作テレビドラマ部門	制作奨励			
	3 E 島崎 寛己、高塚 優太、升田 乃愛、3 D 植木 佑哉				
	3 A 大和田 麗有、齋藤 真珠、山田 ゆかり				
	3 C 小澤 結、小野 愛奈、中村 琴里、平井 壘				
	2 E 黒岩 杏美、米原 凜、2 D 佐々木 颯太、長谷川 大智				
	1 E 浅井 優樹、岩崎 皓大、森 隼人、山本 善博、1 D 森下 武尊、1 A 岡田 初奈				
■第8回高校生バイオサミット in 鶴岡	厚生労働大臣賞・最優秀賞	3 C	田中 泰斗		
■第3回高専生サミット on KOSEN Science and Technology	最優秀賞	3 C	田中 泰斗、橋本 真弦		
■日本高専学会第24回年会	優秀ポスター賞	5 E	青戸 淳之介		
	優秀ポスター賞	5 C	池田 耕介、岡 あまね、木内 亜美、中島 邑杜		
■NIMS Internship Program 2018	NIMS Internship Award	4 E	島田 寛世		

全国高専大会

【将棋同好会】第25回全国高等専門学校将棋大会 個人戦優勝

将棋同好会主将・4E 今出 耕太郎

8月22～24日に第25回全国高等専門学校将棋大会が茨城県で開催され、米子高専からは6名のメンバーが参加しました。

個人戦では、2年物質工学科の近藤裕君が優勝しました。昨年は実力が発揮できず3位に終わったので、力を出し切ってつかんだ今年の優勝をととても嬉しく感じています。私も参加した団体戦では、3回戦で優勝した茨城高専に1-2で競り負けてしまいました。負けた2人共、勝っている将棋を落としてしまったので、とても悔しく思っています。

来年は、個人戦においては2連覇し、さらに全員が予選通過して1戦でも多く勝ち上がることができるように練習を頑張ります。団体戦では5年生にとっては最後の大会となるので、来年こそ優勝して米子高専で個人、団体の両方を独占したいと考えています。

2C 近藤 裕

この大会の直前に開催された全国高校竜王戦で優勝して、その勢いで団体戦と個人戦に優勝したかったのですが、竜王戦と団体戦は負けてしまいました。そのため、個人戦だけは絶対に勝ちたいと思っていました。

予選リーグでは初戦で負けて一敗を喫してしまいましたが、かえてこれで気持ちを切り替えることができました。決勝トーナメントでは、残り時間1秒での切れ勝ち(相手の持ち時間が0秒になって勝つこと)など危ない将棋もありましたが、目標の優勝を手にすることができました。



団体戦の対局の様子



表彰式

【柔道部】全国高専大会でV2

柔道部顧問・物質工学科 小川 和郎

今年度の中国地区高専体育大会柔道競技は山口県のFUJIBO柳井化学武道館にて開催されました。7月6日から7日にかけて山陽地区は未曾有の大雨に見舞われ、大災害の中での大会となりました。多くの課題が残る大会でしたが、本校からは2名の学生が全国大会に駒を進めることができました。

きれいに整備された大きな街。全国大会の舞台となった大分県大分市の第一印象でした。市街地から少し離れたところにある大分県立総合体育館では、8月25日に団体戦がありましたが、本校からは出場できませんでした。26日には各階級の個人戦があり、本校からは男子90kg超級に4E山崎俊太郎君(4年連続)、女子63kg級に2E大場遥加さん(2年連続)が出場しました。大場さんはディフェンディングチャンピオンとして望んだ大会でしたが、1回戦から決勝まですべて一本で勝ち進み、見事V2を達成しました。山崎君は残念ながら初戦で敗退しましたが、重量級らしい力強い柔道でした。

来年度は米子で全国大会が開催されます。柔道部は一層精進して練習に励みますので、今後とも応援の程、よろしくお願い致します。また、柔道部では団体戦に出場するための選手が不足しています。学生の皆さん、ぜひ柔道と一緒に汗を流しましょう。



優勝した大場さん(右)



大場さんが押さえ込みを決めた瞬間



健闘した山崎君(右)

【卓球部】男子団体準優勝・男子ダブルス準優勝

卓球部顧問・電子制御工学科 河野 清尊

第53回全国高専体育大会卓球競技は、8月24～26日に北九州市立総合体育館で開催されました。

男子団体では、予選リーグで前年度優勝校の高知高専を3-1で倒し、準決勝では福島高専を3-1でしりぞけて決勝に駒を進めました。決勝は広島商船高専との対戦で、中国地区大会の雪辱を期して臨みましたが0-3で敗退し準優勝に終わりました。

また、男子ダブルスでは、2E柳原武司・2D森正晴組が順当に決勝まで勝ち進み、決勝では前日の団体戦で対戦して勝利していた福島高専のペアと再び対戦することになりました。この試合、2セットを先取し優位に試合を進めましたが、最終盤で逆転され2-3の悔しい敗戦となりました。

女子シングルスに出場した4C岡愛香梨は、予選リーグを全勝で突破しましたが、準決勝で敗退し、続く3位決定戦でも敗退して入賞はなりませんでした。

悔しさの残る全国高専体育大会でしたが、来年度の米子大会につながるものになりました。来年度は地元開催です。全種目全国制覇を目指して頑張りたいと思います。



閉会式・表彰式後会場にて

【バドミントン部】男子団体戦にて準優勝

2C 山根 康平

8月25、26日に牧園みやまの森運動公園総合体育館で行われた全国高専大会に出場してきました。

1日目は団体戦とダブルスが行われました。団体戦は昨年初戦敗退でしたが、今年は決勝まで進むことができました。決勝では北九州高専と対戦しましたが2-1で負けてしまい2位となりました。ダブルスは4D井上・4C山崎と5C池田・2C山根が出場しましたが、2ペアとも初戦敗退となりました。2日目はシングルスが行われ、2C山根と4D井上が出場しました。山根は2回戦、井上は初戦敗退という結果でした。

今回団体戦では2位という結果を残すことができましたが、個人戦では良い結果が残せませんでした。来年の全国大会の個人戦でメダルを取るためには、個々の力を伸ばすことを努力しなければならないと感じました。お世話になった先生、OB、マネージャーの皆さんありがとうございました。



表彰式後の団体メンバー

【テニス部】女子ダブルス準優勝

テニス部主将・5D 村尾 拓哉

テニスは8月21日から8月23日に熊本県の熊本県民総合運動公園パークドーム熊本で行われ、女子ダブルスに4M春山・3C原ペアと、4C藤井・3E野々村ペアの2組が出場しました。今年も前年に引き続き、春山・原ペアが決勝進出しましたが、惜しくも準優勝という結果でした。

決勝戦の相手は神戸市立高専で、とても力強い球を打つペアで、1セット目を6-1で落とし、相手のペースのまま2セット目も6-2で落としてしまいました。

非常に悔いの残る結果となってしまいましたが、この結果をバネに来年は優勝してくれることを信じています。私は結局5年間全国の舞台に立つことはできず、コーチとしてこの大会に参加しましたが、学ぶところがたくさんありました。選手とともにこの経験を持ち帰り、後輩たちの力を伸ばすことに残りの部活動は力を入れたいと思っています。



全国大会参加部員

【陸上競技部】中国高専大会の2年連続男女W優勝! 全国高専でも5年生が大健闘!

陸上競技部顧問・教養教育科 南 雅樹

豪雨に見舞われ大会日程を変更して行われた第54回中国地区高専大会は、昨年に続き男女W優勝となり、女子は6連覇を飾りました。この結果、昨年と同じく過去最多の合計30名が全国高専大会への出場権を獲得しました。

第53回全国高専体育大会は、8月18、19日にえがお健康スタジアム(熊本市)で開催されました。出場者ランキングでは本校部員が8位以内に8名、リレー1種目と昨年以上の活躍も期待できましたが、前期末試験から僅かに1週間と全国でも最も準備期間が短く、短期間の調整で故障する者が多数出てしまいました。そのような厳しい状況の中で、昨年インターンシップと重なり欠場した女子800mの5C坂本は、ゴールまであと20m地点では先頭に立つ快走を見せて、堂々の3位入賞を果たしました。また、強豪が揃うなか中国地区で6年ぶりに予選を通過した男子4×400mリレーでも途中で先頭に立つ積極的なレースを展開し、アンカーの主将5E岡村が4位でゴールを駆け抜けました。

最後に、中国地区高専大会において男子は3連覇、女子は7連覇、更に全国高専大会での上位入賞を目指し、陸上競技部は部訓『文武両道』の下で計画的に頑張っています。これからも是非期待して下さい!



男子4×400mリレーの表彰台
(メンバー:眞山・青戸・岡本・岡村)



女子800m5C坂本:最後の直線のラストスパート

【剣道部】女子団体・女子個人で3位入賞

剣道部顧問・電子制御工学科 中山 繁生

剣道競技は8月22、23日に福岡県久留米市の久留米アリーナにて開催され、本校からは女子個人戦に4C錦織、女子団体戦には4M大和、4C錦織、2C倉敷、1M岡崎、1A戸川、4C田中、1C石井が出場しました。

初日の個人戦で、錦織は1回戦、2回戦と連続して延長戦にもつれ込んだものの順当に勝ち進みました。準決勝では熊本高専の選手に惜敗しましたが、堂々の3位入賞を果たしました。また2日目の団体戦では、本校は予選リーグで富山高専(本郷)と神戸市立高専と対戦し、僅差ではありましたが勝利を収め、決勝リーグに進出しました。続く決勝リーグでは優勝した鈴鹿高専に引き分けたものの、群馬高専には敗退し、結果として3位となりました。

最後になりますが、この場をお借りして応援いただきました皆様にお礼を申し上げます。来年は男女揃って全国大会出場を目指したいと思います。



表彰式後の記念撮影

【水泳部】男子100mバタフライで3位入賞

水泳部主将・4M 川辺 瑞記

水泳競技は、長崎市民総合プールにて9月1日と2日に開催されました。本大会には中国地区大会から勝ち上がった6名の部員が出場しました。

5M岡田が200m背泳ぎ、5C寺本が100m平泳ぎ、5E田平が800m自由形、4M川辺が400m自由形、3D鐘築が50m自由形と100mバタフライ、2M稲村が200m個人メドレーに出場し、3D鐘築が100mバタフライで決勝に進出し見事3位に入賞しました。

ほかの部員はタイム決勝の種目を除き予選落ちしてしまいましたが、各地区予選を突破した選手たちの泳ぎや会場の雰囲気など、全国大会ならではの環境の中で新たな課題や目標を見つけることができたことは部員たちにとって貴重な体験になったと思います。

3位に入賞した3D鐘築に続いていけるよう来年度の全国高専大会により多くの選手が出場すること、昨年度からの目標であるリレー種目にも出場することを目標に、これからも練習に励んで行きたいと思います。

応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。



競技会場での集合写真

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

空手道部

2年連続インターハイ出場

3C 近田 繭子

8月3～6日にインターハイ2018「第45回全国高等学校空手道選手権大会」が岐阜メモリアルセンター「で愛ドーム」で行われました。私は鳥取県代表として女子個人組手競技に出場しました。試合は初戦から強豪校である香川県代表高松中央高校の世界で活躍する選手と対戦し、0-8という悔しい結果となりました。試合を振り返ると試合の流れを自分のものにできなかったことが敗因だと思います。今回の大会では強豪選手と試合をし、さらに様々な選手の試合を見学することができ、良い刺激になりました。今後もこの経験を生かし日々練習を頑張りたいと思います。



試合会場前にて

ソフトテニス部

インターハイ ソフトテニス競技に出場して

3A 加藤 有真

8月3～5日に三重交通Gスポーツの杜鈴鹿庭球場において、3E橋本颯太君とペアを組み男子ダブルス(個人戦)に出場しました1回戦は大阪商業高等学校との試合に臨みました。私たちは接戦の末、わずかに生まれたチャンスをしっかりとものにし、勝つことが出来ました。3回戦の岩手高校との試合では、自分達のプレーができず、負けてしまい悔しかったです。今回の経験で全国レベルを実感し、更にレベルアップして行きたいと感じました。最後に、保護者や外部コーチ、顧問の先生、OBの方々からの声援やサポートは大きな支えとなり、インターハイ出場に繋がりました。感謝申し上げます。



男子ダブルスペア(加藤、橋本)

卓球部

インターハイに出場して

2E 柳原 武司

8月3～8日に愛知県豊田市のスカイホール豊田で開催された全国高校総体卓球競技の男子シングルスに出場しました。1回戦は、群馬県樹徳高校の池田聡大選手と対戦して3対0で勝ち、2回戦は、石川県遊学館高校の川村大貴選手と対戦して2対3で負けました。初めてのインターハイで初戦はとても緊張しました。2回戦の相手は男子学校対抗でベスト4に入った高校のエースだったので、試合前は正直負けても仕方ないだろうと思っていました。しかし、結果はフルセットの13対15。あと少しで勝てていたと考えるととても悔しかったです。今回の経験で全国の強い相手でも自分の卓球は通用することを実感しました。来年もインターハイに出場するために今よりも強くなれるよう努力していきたいです。



インターハイ会場入口にて

柔道部

インターハイにて全国の強豪と対戦

柔道部顧問・教養教育科 布施 圭司

6月2～3日に鳥取県立武道館で開かれた、鳥取県高等学校総合体育大会柔道競技において、2E大場遙加さんが女子57kg級で優勝を果たし、8月8～12日に津市産業・スポーツセンターで開催されたインターハイに出場しました。7月の豪雨で、被害があった地域もあり、遠征計画を立てている時期に岡山までの特急やくもが運行停止で、心配していましたが、大会は無事開催されました。試合は2回戦で愛知県の代表に残念ながら惜敗しましたが、全国の強豪が出場するレベルの高い大会での経験は、今後の糧になると思います。支援して頂いた関係の皆様にお礼申し上げます。



試合会場にて

【空手道部】国際大会にて第3位！

4C 林 来翔

私は、8月末にイギリスのレスターで開催された「和道会オールネイションズチャンピオンシップ2018」という空手道の世界大会にU21男子形競技の日本代表として出場しました。私にとっては初の国際大会だったので、試合の1つ1つが新鮮でとても良い経験になりました。自分の力を出し切ることができ、結果は3位でなんとか表彰台にのぼることができました。ここまで頑張れたのも、高専の部員や道場の仲間、先生方や友達、そして家族と多くの支えがあったからだと思います。本当に感謝しています。今後とも、文武両道を念頭に置いて日々精進していこうと思います。



イギリス・レスターアリーナにて

【卓球部】ミニ国体に出場して

2E 柳原 武司

8月11・12日に萩市民体育館で行われた第73回国民体育大会中国ブロック大会(ミニ国体)に少年男子の鳥取県代表として出場しました。5県のリーグ戦で、試合結果は0勝4敗の完敗でした。試合を通して学んだことが2つあります。一つ目は、サーブとレシーブの大切さです。競った場面で、自分のサーブの時には楽に点を取るために、相手のサーブの時には自分が攻めやすくするために必要だということを学びました。二つ目は、試合を楽しむことです。緊張していつものプレーが出来なくなるよりは、試合を楽しむことで肩に力が入らなくなり、冷静に試合を運ぶことが出来ることを、試合を通して実感しました。さらに、これからの試合で勝っていくために台上のプレーを強化していきたいと思いました。



ベンチにて鳥取県選手団のチームメイトと

【放送部】NHK杯全国高校放送コンテスト 制作奨励受賞

3D 植木 佑哉

私たちは、7月23～26日に東京で行われた第65回NHK杯全国高校放送コンテストの全国大会に出場し、創作テレビドラマ部門で制作奨励(同率11位)を受賞しました。準決勝まで勝ち進み、私たちの作品の下馬評は高かっただけに、ちょっと残念な結果でした。しかし、今年は何んと言っても、米子高専として初めてアナウンスと朗読の部門で私、植木と3A山田ゆかりさんがそれぞれ全国進出したことが大きなトピックです!これによって、全7部門での全国大会進出が初めて叶いました。

個性的な作品を沢山見て、刺激を受け、さらに全国各地の高校生と友だちになることが出来、とても充実した4日間でした。



決勝戦会場のNHKホール前にて

学生相談室から保護者相談会のご案内

学生相談室長 森田 典幸

高専祭にて保護者の方を対象にした相談窓口を開設します。悩みを聞き、周辺環境の改善に取り組む総合コンサルタント役であるソーシャルワーカーが話を伺います。相談したいこと、気になることがございましたらお気軽にお越しください。

＜日時＞ 平成30年11月2日(金) 9:00～17:00 3日(土) 14:30～17:00

＜ソーシャルワーカー＞ 廣江 仁 氏(精神保健福祉士)

＜利用方法＞ 当日、保健室にお越しください。

※予約状況によりましてはすぐに相談できない場合がありますのでご了承ください。

学生には悩みがある場合に抱え込まず来室をするように呼び掛けています。下記連絡先にて電話、手紙でもご相談を受け付けています。

【宛先】〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 米子工業高等専門学校 学生相談室

【電話番号】0859-24-5262 (※月～金曜日 9:00～17:00)

H30年度インターンシップについて

4年学年主任・建築学科 西川 賢治

本校では夏季休業期間中に本科生は4年生、専攻科生は1年生が企業や大学等研究機関で就業体験を行うインターンシップに参加しています。インターンシップの目的は、学生が将来の職業（業種、企業、大学等）について事前によく調べた上で事業所や研究室等での実習に臨み、職場での実体験を通じて得た学びを振り返り、翌年度に控えた進路選択の参考とするものです。進路の目標が定まれば、今後の学業へのモチベーションも高まることとなるでしょう。

今年度は430件以上の企業・団体からインターンシップ受入可能のご回答をいただきました。昨年度と比べると60件以上も増加しています。このように学生にとってはたいへん恵まれた状況になっていることもあり、本科4年生であっても複数の企業でのインターンシップに参加する学生もいます。

近年、企業がインターンシップを新卒の採用活動の一環と位置付け、本腰を入れている状況があります。インターンシップの担当窓口が採用人事担当という企業もあります。学生は実習を通じて就業体験を積むことで得難い学びや気づきを授かりますが、同時に態度振る舞いや能力を採用という視線で企業側から観察されてもいます。今回の実習を通じてこうした社会の厳しさを肌で感じた学生も多かったのではないかと思います。

最後になりますが、インターンシップにご協力くださった企業・団体の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

在籍学生数（9月30日現在）

4M	4E	4D	4C	4A	合計
41	46	40	42	39	208
男子38 女子 3 (留学生1)	男子42 女子 4 (留学生0)	男子39 女子 1 (留学生0)	男子19 女子23 (留学生1)	男子23 女子16 (留学生1)	男子161 女子 47 (留学生3)

航空機整備の現場にて

4M 井坂 斗真

私は、8月27日から5日間、株式会社JALエンジニアリングのインターンシップに参加させていただきました。機体作業見学では、タイヤ交換と、ギアオペと呼ばれるタイヤの出し入れのチェックなどを見学しました。運航整備実習では、出発前の飛行機の点検をして、見送りをしました。どの作業の先にも必ずお客様がいて、多くの命を預かる大切な仕事だということが分かりました。

今回のインターンシップを通して、航空機のことはもちろん、今の自分に足りないものなど様々なことを学ぶことができ、とても有意義な5日間になりました。



機体作業見学

インターンシップで得たこと

4M 小林 恭平

私はコニカミノルタジャパン株式会社で5日間のインターンシップとして、社内の見学や、ビジネスマナーの研修、コピー機の分解、組み立て、現場の見学などをさせていただきました。今まで、普段の生活で使用しているコピー機がどのような仕組みで複写しているのか意識したことはありませんでした。しかし、今回のインターンシップで実際にコピー機の分解、組み立てを行ったことによりコピー機への理解が深まりました。また、マナー研修では名刺交換の仕方、目上の方との接し方など様々なことを教えていただいたので、この体験を今後の学校生活でも活かしていきたいです。



作業の様子

マイスターエンジニアリングの インターンシップに参加して

4E 永井 裕登

僕は設計・開発からメンテナンスといった幅広く活躍されている株式会社マイスターエンジニアリングに興味があったため、インターンシップに参加させていただきました。

慣れない実習もありましたが、シーケンス制御や組込みシステムなどの実習を通じて、実際に現場で働くイメージを膨らますことができました。さらに、授業で触れたことのないアルミフレームの組立てなども体験することができ、良い経験となりました。また、グループワークでは、役割分担やコミュニケーションの大切さを改めて感じさせられました。

今回のインターンシップで経験し、学んだことを、今後の学校生活・就職活動に生かしていきたいと思います。



ハードシーケンス制御の実習の様子

Webページ作成を体験して

4E 種 香夏

私は9月10日から14日までの5日間、株式会社イーウェルでインターンシップに参加させていただきました。

実習では目的に沿ったキャンペーンを立案し、それを実現する為の架空の特設Webページをチームで作成しました。使った事のないプログラミング言語でページ作成を行ったので大変でしたが、社員の方が講師として丁寧に教えて下さったおかげで形にする事ができました。実習を通し、改めてプログラムの楽しさや協力して1つのものを作り上げる達成感を感じました。社員の方との交流の時間も多く、沢山のアドバイスをいただきました。

私にとって、このインターンシップは将来を考える上で大切な経験となりました。3年生以下の皆さんも4年生になったら夏季休業中には是非インターンシップに参加してみてください。



チームでのWebページ作成の様子

NTTフィールドテクノのインターンシップに参加して

4D 内田 純平

私は、8月27日から31日にかけて株式会社NTTフィールドテクノ中国支社のインターンシップに参加させていただきました。実習内容は、実習先や他のグループ会社について現場の方のお話を聞いたり、職場や設備を見学したり、実際の仕事を体験したりと多岐にわたりました。特に、バケット車の搭乗は想像以上の高さに驚きました。また、現場の方々のお話を聞いて働くことが身近に感じられるようになりました。今回の実習を通して、設備系のお仕事やお客様の通信を担う現場で働く方々の覚悟、社会人としての礼儀や態度も学ぶことができ、貴重な機会となりました。



バケット車の搭乗実習

医療機器について学んでみて

4D 木村 優太

私は今回キヤノンメディカルシステムズ株式会社のインターンシップに参加させていただきました。この会社では主にCTやMRIといった医療機器の主に開発や技術サポートなどを行っています。実習は、会社で開発している機器の仕組の講義がメインで進み、他には、病院へ行き、機器が動いているところや内部など普段見ることができない部分を見ました。講義では、今まで高専では学んだことのない内容を学ぶことができとても勉強になりました。今回のことで将来のイメージを得ることができたため今後の学生生活では目的をもって勉学に励んでいきたいと思っています。



CTの内部

責任とやりがい

4C 黒金 龍平

私は、山口県と広島県にある三井化学岩国大竹工場のインターンシップに5日間参加しました。私は工業薬品課と環境課に配属されました。製品を作っている工業薬品課と排水処理等を担当する環境課を見学したことで、工場の仕事は、その一つでも欠けると工場の操業はできないことが分かりました。同時に、工場の運転が止まると企業に大きな損失が生じるので責任も感じました。他の企業でもすべての仕事に責任があることは同じだと思います。今回インターンシップに参加したことで、責任がある仕事ほどやりがいや達成感を得られるということが分かりました。



インターンシップで感じたこと

4C 田中 望未

私は、大阪ガス株式会社にお世話になりました。製造所を見学したり、仕事内容をお聞きたり、実際に商品の内部を見せて頂いたりしました。最終日には課題を出され、班でそれに取り組みました。私は、座談会で言われた「外部の人とのコミュニケーションに一番大事なのは一生懸命さ」という言葉が一番印象に残りました。よく喋れるとかではなく、相手の質問に嘘を言わず、分からないことは一生懸命に調べて答える関係を続けると自然に信頼関係が築けると言われました。この言葉で本当の意味で信頼関係が築ける人になりたいと思いました。



最終日に撮った女子参加者の集合写真

建築設計事務所での実習

4A 岸川 陽紀

私は8月16日から8月30日までの15日間、兵庫県神戸市の設計事務所「いるか設計集団」のインターンシップに参加してきました。実習には模型製作やデザインの検討といった学校で学習した事を生かせる作業もありましたが、学校では学習できないような実際の打ち合わせの見学や現場管理の仕事の体験、そして設備関連の図面の描き方などを教えて頂き、建築の仕事の大変さや楽しさなどを知ることができました。

また、それぞれに様々な経歴を持つ所員の方たちからお話を伺い、同じ建築の仕事に取り組んでいる方でも仕事に対する考え方や得意な分野がそれぞれ違って一口に建築と言っても様々な仕事があるのだなと実感し、進路を決める際の視野を広げることができました。



いるか設計集団事務所入口

就職に直結する貴重な体験

4A 小谷 実也

私は2つの企業、三菱地所コミュニティ株式会社と株式会社スーパーマニアックでインターンシップを行いました。

まず、三菱地所コミュニティ株式会社は、マンションやビル管理を行っている会社でした。実際にマンションを訪問し、授業では見ることでできない、設備などを見学させていただきました。

次に、株式会社スーパーマニアックは、店舗内装などのデザインを行っている会社でした。業務では私達が普段授業で使っているCADソフトも使用していましたが、パースの切り取り方や、表現方法などデザインテクニックについて勉強させていただきました。たくさん学ぶことができました。

両方の企業でもとても貴重な体験をさせていただきました。この経験を今後の就職活動に活かしていきたいと思っています。



三菱地所コミュニティ建物外観

平成30年度 オープンキャンパス

8月10日(金)・11日(土)の2日間、米子高専オープンキャンパスを開催しました。今年度は、県内外より587名の中学生とその保護者及び引率教員に参加いただきました。

参加者はそれぞれの希望する学科の実験や実習の模擬授業を体験し、中学校では経験したことのない実践的でユニークな授業に生き生きとした表情で取り組んで、大きな関心を寄せていました。昼休みには、寮食堂や校内で行われた各学科紹介、興味のあるクラブ活動へ足を運んだり本校の学校生活を見学できる時間も設けました。午後からは、2回目の模擬授業体験を実施した他、希望者を対象に学生寮を公開し、実際に学生が生活する寮内を寮生が案内しました。参加者にとって、米子高専への理解を深め、興味を持つことができる良い機会となったようでした。

両日も暑い中での開催でしたが、大盛況のうち無事に終了することができました。今後も米子高専の魅力をより多くの皆さんに知ってもらうため、工夫を凝らしたオープンキャンパスを開催していきたいと思います。

* 体験の様子 *



【機械工学科】



【電気情報工学科】



【電子制御工学科】



【物質工学科】



【建築学科】



エンジョイ科学館

満足度
99%

7月21日(土)、中学生向け体験イベント「エンジョイ科学館」を実施し、鳥取県内の中学生を中心に約100名が参加しました。本イベントは平成7年度から開始し、今年で24回目。本校の専門性を生かした講座を通じてものづくりの楽しさを体験してもらい、科学への興味や学習意欲を高めることなどを目的としています。オープンキャンパスとは違い中学1・2年生も参加できることもあり、毎年人気のイベントとなっています。

今年度は、「機械館」「3D造形館」「おもしろ音声館」「電子制御館」「科学捜査館」「建築館」「理科館」「数学館」の8講座を開講しました。中学生らは現役の高専生に教えてもらいながら、ロボット製作やコンピュータのプログラミング、試薬を使った化学実験などに挑戦しました。参加者からは「自分で工夫して家を作れてとても勉強になりました(建築館:夏は涼しく、冬は暖かい家を作ろう)」などそれぞれの館に対する感想のほか、「普段できない経験ができて良かった」「高専生が優しく教えてくれた」「来年もまた参加したい」などの嬉しい声をいただきました。



機械館「レスキューロボコンに出場しよう!」



数学館「パズルやゲームで数学に触れてみよう!」

平成29年度日本設計工学会論文賞受賞 高専単独研究としては全国で初の受賞

機械工学科 矢壁 正樹

先頃、機械工学科大塚茂教授・権田岳准教授と共同執筆した研究論文「超音波法による多孔質焼結含油軸受の油膜厚さ測定(温度補正法による測定精度の向上検討)」、設計工学52巻12号(2017)」に対して、平成29年度日本設計工学会論文賞を受賞する栄誉を賜りました。本論文賞は毎年1～12月に日本設計工学会誌に掲載された全ての論文の中から、その内容が最も優秀と認められる論文に贈賞されるものです。受賞対象となった論文は、従来の測定法では困難であった小径多孔質焼結含油軸受における油膜厚さ測定に対し、超音波法を応用し、さらに測定値の温度補正を行う事で数 μm オーダーの油膜厚さを高精度に測定することを可能とする技術について述べています。この技術の応用範囲は広く、例えば火力発電所などの産業用途(発電・ポンプ駆動等)に使用される蒸気タービンの異常検知や保全等への活用が想定されます。贈賞式は、平成30年5月26日(土)日本設計工学会春期大会総会(於 東京大学本郷キャンパス)で行われ、「ユニークな超音波の性質を巧みに活用した研究手法は非常に興味深く、そして独創的で工学的有用性が高くかつ論文として学術点が高い」との贈賞理由が紹介されました。

今回の受賞は、本校の教育・研究の質の高さの証左であり、またこれを励みとして、今後も業務に励んでいきたいと思えます。最後になりますが、今までご指導、ご助言を頂いた先生方、また実験を手伝ってくれた機械工学科学学生諸君に本紙面をお借りして御礼を申し上げます。



贈賞式・記念パーティー
(東京大学本郷キャンパス)にて

高校生バイオサミット in 鶴岡に参加して

3C 田中 泰斗

今回私は、7月30日から8月1日に山形県鶴岡市で開催された、第8回高校生バイオサミット in 鶴岡において、「卵殻の複数成分を有効活用した機能性材料創製の試み」というテーマで発表を行い、厚生労働大臣賞を受賞することができました。これまで多くの学会に参加する機会を頂いたことで、今回の学会では、審査員とのディスカッションを楽しむことができ、自身のプレゼンテーション能力の上達を感じました。また、他校の生徒との交流も深めることができました。今後も、研究の質のさらなる向上を目指して真摯に取り組んでいきたいです。



高校生バイオサミットの会場にて

第3回高専生サミットに参加して

3C 橋本 真弦

私は、9月13～15日の3日間、山形県鶴岡市で開催された「高専生サミット」に参加しました。今回が初めての学会だったため非常に緊張しましたが、発表や審査員の方とのディスカッションを通して自らの研究に対する理解が深まりました。そして、学会の雰囲気を肌で感じる事ができたため、非常に良い経験ができました。また、他高専の学生と意見を交換する機会があり、勉強や研究に対する意欲が高まりました。今回の学会での経験を今後に生かし、自身の研究がより良いものになるよう精進していきたいと思えます。



高専生サミットに参加した他高専の学生とともに

Award for NIMS Internship Program 2018受賞

4E 島田 寛世

私は、国立研究開発法人 物質・材料研究機構(National Institute for Materials Science: NIMS)のインターンシップに17日間参加しました。このインターンシップに参加するためには、まず、学生が行っている研究のアピールポイントを記載した申請書を提出します。その提出した申請書は、全世界から集まった申請書とともに審査され、優れた内容のみがAwardを授与されると共に、NIMSでのインターンシップに参加する機会を与えられます。今回、私は幸運にも本賞を受賞し、インターンシップに参加する機会をいただきました。このインターンシップで私は、超電導材料についての研究をさせていただき、とても貴重な経験をする事ができました。今回のインターンシップで学んだことを今後の研究に活かしていきたいと思えます。



韓国・群山大学校からの長期インターンシップ

群山大学校 キム・グアンホ

こんにちは。群山大学校からきたキム・グアンホと申します。大学2年生なので高専5年生と同学年です。10月から2月末までの米子高専での長期インターンシップでは、ソフトウェア関係の研究体験、授業の聴講、韓国語授業の支援、日本企業での就業体験を予定しています。日本に来たのは今回で2回目です。前は昨年12月から今年2月まで広島で日本語の勉強や日本文化の体験をしました。日本語の勉強は中学校から始めたので6年ほどしています。漢字は難しいのでほとんどわかりませんが、これまで会話で困ったことはあまりありません。私を見かけたらいつでも話しかけてください。よろしくお願いします。



浅倉邦彦国際交流支援室長(右)と私(左)

国立中興大学(台湾)と国際交流協定を締結

国際交流支援室

本年7月、米子高専と国立中興大学(台湾)は、教員間の学術交流や学生交流の奨励・推進を目的とした国際交流協定を締結しました。日程上の都合により調印式は実施できませんでしたが、米子高専の氷室校長と国立中興大学のFuh-Sheng Shieu学長がそれぞれ協定書に署名し、両校の交流を通じた発展に合意しました。

国立中興大学は、台中市に所在する創立約百年の伝統ある総合大学です。今回の協定締結は、本校梗間由幸准教授と国立中興大学 頼秉杉(ライ・ピンシャン)教授との「がん細胞の分析」に関する共同研究がきっかけとなり実現に至りました。今後、国立中興大学での海外インターンシップ、学生交流や文化体験などの海外研修プログラムを企画・実施していく予定です。



協定書を手にするFuh-Sheng Shieu学長(左)と梗間由幸准教授(右)

海は人をつなぐ環境研修を終えて

5E 米原 大世

私は海洋漂着ゴミを通して日韓の環境問題を考える環境研修に参加しました。この研修は、6月22～30日まで福井県の若狭湾と米子市で韓国の南ソウル大学校と群山大学校の学生と一緒に実施したものです。研修では若狭湾や米子市の自然に触れながら環境保全の大切さを学ぶと共に、日本と韓国での文化や価値観の違いについて理解を深めることが出来ました。また韓国の学生とコミュニケーションをとる中で、私たちと同じ世代の外国人がどのように日本を見ているのか、またどのようなイメージを持っているのかというのが分かり、「外から見た日本」という観点から改めて日本の文化や環境について考えることができました。



若狭湾の韓国船遭難救護の碑の前で

第2回NIT-NUU日台国際カンファレンス

5C モハマド・フィトリ・アイマン・ビン・イドリス

私は7月21、22日に岡山市で行われた国際カンファレンスに参加しました。カンファレンスでは、台湾国立聯合大学(NUU)と高専(NIT)の学生が自分のやっている研究テーマを紹介し、互いに質問をしました。私は「Formation of Solid Electrolyte from Ionic Liquid Using Disc-shaped MCM-41」というテーマで電池材料に関する発表をしました。皆の発表は化学以外の多分野にも亘り、難しく理解できない内容もありましたが、どれも面白く、知識を広めることができました。この経験を活かし、研究が成功するよう努力していきたいです。最後に、指導いただいた田中晋先生に深く感謝し、お礼申し上げます。



会場となったピュアリティまきびにて

ステージアップ研修 in 韓国

5C 山村 萌衣

私は9月7日から14日まで、韓国でのステージアップ研修に参加しました。研修を通して、日本人の視点から韓国と日本の同異点を学び、その中で日本らしさを発見しました。例えば、建築物、工芸品には四季の美しさや日本の技術を生かした物がありました。さらに、友達になった人達は口を揃えて、いろいろな顔を持つ個性豊かな日本が好きと話していました。このように海外で、現代まで続く日本の美しさを発見し、それらを現地の人と共感できたことは貴重な経験でした。また、出会った方々と沢山の交流をしたことで得られた自信も自分の力に繋がりました。今後も米子高専から多くの学生に参加してほしいと思います。



フィールドワークでの一コマ

英語キャンプ (8月27～28日、香川県・休暇村讃岐五色台) に参加して

1A 木下 小雪

私はこの英語キャンプに参加して、色々な国の方や他高専の方々と交流することが出来ました。楽しいゲームや、休憩の時の雑談で英語にたくさん触れることができました。また、海外の文化に触れたり、逆に日本の文化を伝えたりといった国際交流もでき、とても有意義な時間を過ごすことができました。来年もまた参加したいと思います。

1A 牧田 季莉

私は、この英語キャンプの活動を通して米子高専以外の沢山の高専の人と交流することができました。英語キャンプに行く前は、しっかり英語を話せるかなど沢山の不安がありましたが、他県の高専の先輩方や教員の方々が本当に優しくアドバイスなどをしてくださりとても良い経験になりました。



英語キャンプで出会った仲間と

フィリピンでの海外語学研修旅行に参加して

3M 杉澤 拓海

8月15日から30日までの2週間、フィリピンにあるエミリオ・アギナルド大学の海外語学研修旅行に参加しました。授業は、先生とマンツーマンで英語漬けの毎日でした。開講式から始まり、テストに交流会、週末の観光など短期間でも充実した日々を過ごすことができました。私は初めての海外で心配でしたが、先生方が積極的に声をかけてくださり、すぐに打ちとけることができました。先生方の高いコミュニケーション能力を模範にしたいと思います。美しい都市や観光地を巡ると同時に、街の片隅では治安の悪い光景を目の当たりにすると、日本の良さに改めて気づかされました。この貴重な体験を、今後の学生生活に生かしていきたいです。



帰りのマニラ国際空港での集合写真

台湾での語学研修に参加して

1D 市岡 将太郎

私は8月26日から9月8日まで、台湾へ語学研修に行きました。中国語の授業では文藻外大の学生の方たちが分かりやすく丁寧に教えてくださいました。またレクリエーション授業もあり、他高専の方たちとも交流を深めることができました。台湾周遊では寺院や博物館に行きました。独特な建築様式や独自の文化を体験することができ、関心が深まりました。現地の人に中国語で話しかけて、とても緊張しましたが、ジェスチャーも交えて何とか伝わったときはすごく嬉しかったです。こういった経験を通して台湾独自の文化を肌で感じることができました。相手とのコミュニケーションの大切さを実感しました。本当に貴重な経験になりました。



カフェでの国際交流

シドニーで感じたこと

2A 島崎 満月

8月18日から9月9日まで23日間オーストラリア研修に参加しました。学校に登校する初日、シドニーの大都会で迷子になり2時間遅刻で学校に到着したり、フェリーでポーチを無くしたり、トラブルもありましたが、全員無事に帰ってくることができました。

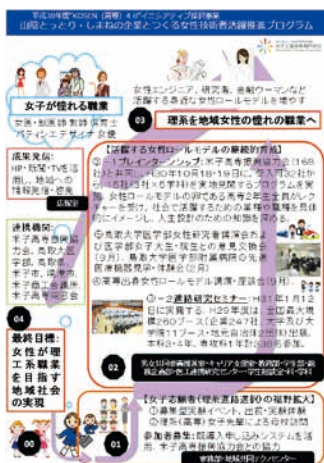
英語が得意な訳ではありませんが、伝えたい、喋りたいという気持ちがあれば、拙い英語力でも会話することが出来ました。語学学校のクラスメイトと母国の話や勉強の話やおしゃれの話など国が違えど日本の高校生と変わらない話を沢山しました。クラスメイトや中国地区高専の研修メンバー、なによりも3週間お世話になったホストマザーなど、素敵な出会いに恵まれ感謝でいっぱいです。



語学学校のクラスメイト

平成30年度「KOSEN4.0イニシアティブ」採択事業 山陰とっとり・しまねの企業とつくる女性技術者活躍推進プログラム

男女共同参画推進室長 森田 慎一



プログラムのイメージ

米子高専の申請した“山陰とっとり・しまねの企業とつくる女性技術者活躍推進プログラム”が、国立高等専門学校機構の平成30年度「KOSEN4.0イニシアティブ」に採択されました。この事業の目的は、女子中学生の理系選択への関心を喚起する取り組みによる裾野拡大や女子高専生への女性ロールモデル情報提供により、地域に貢献する女性人材を一気通貫で育成する循環システムを構築することにあります。

鳥取県は、人口最少県(56万人)であり労働生産性で全国46位、人口減少率でも全国15位(約0.68%)と労働人口減少が進んでいます。この地域の社会と経済の健全な発展には、女性のエンパワメントが欠かせませんが、その取り組みは非常に遅れています。本校では、この状況を改善するために平成29年11月に男女共同参画推進室を設置して、地域産業の活性化を担う女性ロールモデルを生み出すキャリア教育体制を確立するための取り組みを始めています。

本事業の実施によって、地域の産業と文化を理解し、活躍する女性を育てる教育と女子の理系進路選択を促すシステムの構築を進めます。

フロンティア工学セミナーの開講について

医工連携研究センター 副センター長 松本 至

医学と工学を結びつけた医工連携・ヒューマンデザイン教育の一環として8月20日(月)と21日(火)の両日に、フロンティア工学セミナーを実施しました。フロンティア工学セミナーは、医療・介護福祉機器の開発につながる技術を学ぶことを通して融合複合的技術者や新産業・地元産業を牽引する人材を育成することを目的にしており、集中講義の形式で行われる4年生向けの全学科共通選択科目(学修1単位)です。

この講義は、昨年度の後期に鳥取大学医学部教員を含む外部講師を招聘して実施した4回のトライアル講義をさらに充実・発展させたもので、本年度から開講されています。本年度の講義では、4名の外部講師(鳥取大学医学部教員2名と島根大学総合理工学部教員1名と医療福祉機器メーカーの技術者1名)および3名の本校教員による7回の授業をオムニバス形式で実施しました。



鳥取大学医学部からの外部講師による講義の様子

第2回とっとり医工連携フォーラムの開催

医工連携研究センター長 大塚 茂

先頃9月2日、「第2回とっとり医工連携フォーラム」が鳥取大学医学部関係者、医療・福祉関連従事者、地域企業や地方行政、および県内金融機関など100余名の参加者を迎え盛大に開催されました。

今回、フォーラムの基調講演では、「地域包括ケアと機器開発-宇宙医学から発想を得て-」と題して、YMCA米子医療福祉専門学校の河合康明校長にご講演を頂きました。その後、とっとり医療機器開発成功事例発表(Needs & Manufacturing)として、「オーラルシェルの開発」を題材に医学部附属病院の中力直樹副部長と(株)ケイケイの内藤邦武会長によるご講演を経て、パネルディスカッション(P/D)が開催されました。このP/Dでは、医学部学生と本校専攻科学生、総勢7名(教育イノベーションユニット)による「オーラルシェル」への新たなイノベティブ提案が発表されました。提案の中には、新たに口臭対策や虫歯予防などの付加価値を与えたもの、高齢者施設での口腔ケアやAI技術応用による舌癌の早期発見、或いはデザイン性に重点を置いたものなどユニークな提案もあり、講演者・来場者も含めて大いに議論も深まり大変好評を博すことが出来ました。

その後、医工連携研究センターの施設見学も実施され、医療シミュレータロボットやユニバーサルビークル、新たに導入された映像情報可視化装置(VR)などの実演が行われ、会場は大いに盛り上がりを見せていました。



教育イノベーションユニットによる「オーラルシェル」への提案(P/D風景)



渡部 文也さん

2018年3月 機械工学科卒業

2018年4月 九州大学理学部数学科3年次編入学

Q 九州大学理学部数学科はどのような学科ですか？

A 純粋数学から応用数学まで幅広い数学を専門的に学ぶことができる学科です。また、70名近くの教員を内包する日本有数の教育機関でもあります。九州大学理学部数学科では綿密な基礎数学教育に基づき、伝統的な数学教育とともに産業への応用を目指した数学教育も積極的に行われているのが特色です。

Q なぜ、九州大学理学部数学科を選んだのですか？

A 高専では、早い段階から専門的なことを学ぶための幅広い数学がカリキュラムとして設定されていました。ですが、取り扱われなかったり深くは学ばなかったりする分野も存在しました。取り扱われなかった分野に対して興味を持ち、勉強を進めていく中で数学科への選択肢が生まれました。自分が受験した大学は全て合格したのですが、自分が勉強したい分野とのマッチングを考えた結果、今の大学に決めました。

Q 数学科を受験するにあたって、いつ頃からどのような準備をしましたか？

A 勉強自体は1年生の頃から真面目にやっていたのですが、4年生の夏頃に数学科へ行こうと決意したのでそのころから数学科の受験に向けた本格的な対策を始めたことと記憶しています。試験では高専の授業では取り扱われない深い数学の知識が必要とされるので、数学科向けの教科書を使って勉強していました。特に線型代数学は抽象的な話が多いので勉強するのに苦労しました。また、高専の数学の先生のもとに足しげく通ってわからない部分を質問したり、過去問の添削をお願いしたりしていました。合格することができたのは先生方の存在がとても大きいです。



使用している教科書と作成したレポート

Q 渡部さんは、数学科でどのような勉強をしていますか？

A 解析学や代数学などの純粋数学から数理統計学といった応用数学、さらに近年需要が高まっている情報数理などの幅広い数学を勉強しています。自分は数学だったら何でも興味があるので、九大数理のカリキュラムはとても楽しく感じられます。また、高専でのカリキュラムとの違いから授業で戸惑うことも度々ありますが、編入生用の補講でしっかりとケアされています。

Q 大学と高専の違いで感じたことはありますか？

A 九州大学は総合大学なので、文理関係なくいくつもの種類の授業が開講されています。ですので、自分の興味に応じて色々な知識を身に付けることが可能です。理系科目だけでなく、文系科目を専門的に学ぶことができるのは大きなメリットだと思います。最近キャンパス移転が完了したので、文系の授業が取りやすくなりました。

Q サークルや部活には入っていますか？

A 自分は今ボランティアサークルに所属しています。老人ホームや地域の小学校での活動が主で、そこで色々なお手伝いをしています。地域の方と交流することで新たな発見や身近な社会問題などに目を向けることができます。また、他学科の知り合いもできるので大学生活を充実させる一助にもなっています。

Q 後輩へのメッセージをお願いします。

A 自分は機械工学科出身ですが数学科という進路を希望しました。専攻を変えているので授業のレベルのギャップに驚くこともしばしばあります。大学進学は一つの節目です。もし皆さんが私のように、専攻を変更する場合はそれ相応の努力を要することになるかと思います。自分の興味に応じて後悔の無い選択ができると良いと思います。



平成30年9月に移転が完了した
伊都新キャンパス



創立100周年記念として
建設された椎木講堂

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…教養教育科、S…専攻科
例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報室

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009

ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ 印刷：株式会社高下印刷